

【7 - 1 . 北部地域】 建築物・景観形成説明書

項 目	景観形成基準	配慮事項（配慮事項を記載して下さい）	照合	現況の把握・分析 と 計画での具体的な配慮事項	照合
配 置	隣接する建築物の道路側の壁面の位置を揃えるなど、周辺の街並みに配慮した配置とする。				
	敷地内やその周辺に歴史的・文化的な資源（祭りの場など）や残すべき自然などがある場合は、これらを生かした配置とする。				
	大規模な敷地に建築物を建てる場合、ゆとりある空間を活かし、敷地の一部の公開や敷地境界線から建築物の壁面の位置を後退することにより、歩行者空間の拡充を図る。				
	路地において、変則的に交わる街路のコーナーでは、辻空間をつくるなど、まちをつなぐオープンスペースとなるよう配慮する。				
高 さ 規 模	周辺の主要な眺望点（まちかどや辻、河川、公園など）からの見え方に配慮する。				
	周辺建築物群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。				
	既存の街並みの連続性に配慮して、建物の間口の長さに配慮する。				

項 目	景観形成基準	配慮事項（配慮事項を記載して下さい）	照合	現況の把握・分析 と 計画での具体的な配慮事項	照合
形 態 意 匠	建築物単体のバランス・デザインだけでなく、周辺の街並みとの調和を図り、周囲からの見え方に配慮する。				
	建築物に附帯する屋外設備等（屋外機や排気塔等）は、建築物と一体的に計画するなど、表通りから見えないよう配慮する。				
	建築物に附帯する屋外階段は、建築物と一体的に計画するなど、周辺からの見え方に配慮する。				
	駐車場や駐輪場は、出来るだけ見えない位置に配置する。やむを得ず、通りに面する場合などは、植栽や目隠しなどによって、目立たせないようにする。				
	路地においては、軒線の連なりを確保するなど、街並みの連続性に配慮する。				
色 彩 素 材	外壁等の色彩や素材は、色彩基準に適合するとともに、隣接する建築物や周辺景観との調和を図る。				
公 開 空 地 外 構	外構計画は、敷地内のデザインのみを捉えるのではなく、隣接する敷地や道路など、周辺の街並みとの調和を図った色調や素材とする。				
	隣接するオープンスペースとの連続性を確保する。				

項 目	景観形成基準	配慮事項（配慮事項を記載して下さい）	照合	現況の把握・分析 と 計画での具体的な配慮事項	照合
緑 化	敷地内はできる限り緑化を図り、周辺の緑と連続させることで、緑の厚みと広がりを持たせる。				
	緑化にあたっては、周辺の環境に適した樹種を選定し、周辺の景観との調和を図る。				
	路地に対してバルコニーが面する場合は、積極的に緑化を図る				
	路地などで軒先の緑の連なりを確保する。				
	T字路など、通りの視線が集まる場所（アイストップ）では、シンボルツリーを置くなど、積極的に緑化を図る。				
照 明	住宅市街地においては、周辺の住環境を阻害しないよう過度な照明を避け、夜間の景観に配慮する。				
	駅周辺等は、夜の賑わいを演出するライトアップを行うなど、周辺状況に応じた夜間の景観に配慮する。				